

# 喜界島の隆起サンゴ調査



東大准教授ら採集

## 「温暖化研究に貴重」

喜界島の隆起サンゴを分析して大昔の気候を復元し、地球温暖化の影響などを予測する研究調査団が喜界町を訪れた。東京大学海洋研究所の横山祐典准教授（古気候学）ら五人。同調査団は「サンゴには過去の気象情報が記録されている。古いサンゴが採集しやすい喜界島は世界的にも貴重な存在」と話している。

## 大昔—未来の気候変動探る

環境省の地球環境研究総合推進費プロジェクトの一環。今回が三回目の来島で、二月二十五日までの三日間、島内各地でサンゴの採集などを行った。

サンゴを採集する横山祐典准教授（左から二人目）ら 喜界町

こっけいなやりとりが見物客の笑いを誘った霧島神宮のお田植え祭

中庭を田んぼに見立てた農



霧島

は三百年以上の歴史があるとされる。多くのアマチュアカメラマンや見物客が見守つた。

さん（中心）は夫正己さん（右）と訪れ、「豊作を願って葉っぱを自分の田んぼにまきます」と話した。

喜界島のサンゴは年間約二ミリのスピードで隆起を続けており、パプアニューギニアやスナタ列島などに次ぐ速さという。標高約二〇〇メートルの百之合などでは十数年前から数十万年前のサンゴが表出している。

収集したサンゴを化学分析して水温や塩分など気候データを集め、海洋研究開発機構のスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」を使って古気候を復元。将来の気候変動などを予測する。研究成果は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書などに生かされている。

予定で、「IPCCの第四次報告書では熱帯・亜熱帯域の乾燥・湿润の予測精度が低かったが、喜界島の調査で補える」として第五次報告書に精度の高いデータを盛り込む予定だ。

漁協が、新鮮なカン

参加して二月二十四日あり、基幹産業の水産業について理解を深めた。

### 総局・支局来訪

【薩川内総局】濱田翔雲氏（志峰書道会長）作品展開催山元春義氏（九龍川内原字力総合事務所長）今村博氏（同川内原字力発電所長）田尻浩昭氏（同環境広報担当課長）新任の筒田茂氏（草道地域資源活用推進協議会副会長・事務局長）近藤一男氏（同副会長・広報担当）ハズラー終了中村繁太郎氏（日本青少年団入来）



食べさせた「い」と話した。

### 詐欺くれくれ!?



○：日置市市民生活課環境衛生係で先日、同市吹上ら「お前さあは、近所の水質調査を行うことになった。ある高齢者夫婦宅に電話をかけ、取水を了解してもらった。だが馬籠定係（馬籠）が井戸水をもらいに出かけたところ、「帰ってくれ」となぜか門前払い。○：名刺を出し、身分証



○：実は、夫婦が同市吹上支所に問い合わせたところ、「水道関係には、そんな名前の職員はいない」との答え。「最近はやりの詐欺では」と不安になったらしい。「そんなに不審者っぽくみえるのか」とシヨックを受けた馬籠さん。最近では地元や市内での知名度アップに努めている。

（日置支局）